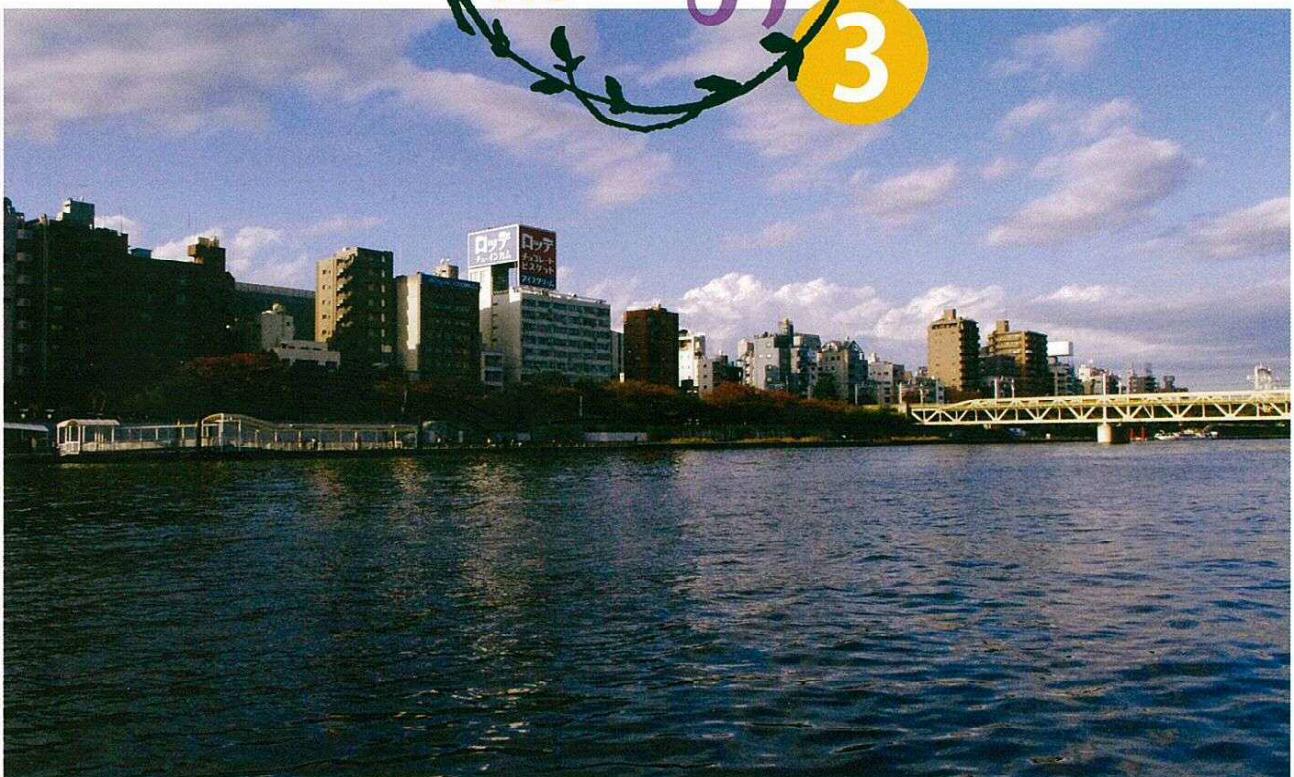


南無阿弥陀仏は  
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
<http://saitokuji.tobiiryo.jp/>  
発行人 岸本秀一  
印 刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



れた。

## 「未曾有」

東日本大震災からもうすぐ一年が経つ。震災の後、未曾有の災害という言葉をよく耳にし、気になっていた。辞書には未曾有とは未だ曾て有らずという意味で、今までに一度もなかったことである。昨年の地震では多くの犠牲をもたらし、原発事故の誘因ともなり、未だ曾て経験したことのないことであった。

しかし未曾有ということは、震災のような忌み嫌うようなことに限ったことではない。親鸞聖人の和讃に「尊者阿難座よりたち仰し 生希有心とおどろかし しみし」とある。阿難は常に釈尊のそばに仕え、多聞第一と呼ばれていた方であるが、なかなか法に遇えなかつた。その阿難が思いもかけず、それまで会つていた釈尊ではなく、未だ曾て見たことのない釈尊に遇い、凡夫の救われる道を聞くという、歴史的な出遇いが書かれている。

私たちが未曾有という言葉を使うときは、自分の決めつけている当たり前から外れたときに使つてているのだろう。そうではなく、本当はすべてのことが未曾有であり、私たちの思いでは及ばない現実を生きているのではないかと思われた。

# 群生海

## 「歌が広げるつながり」



ヒナタカコさん

今回は福井県の真宗高田派のお寺出身で、現在シンガーソングライターとして活動されているヒナタカコさんにお話を伺います。

### お寺に生まれて

幼い頃からお経には親しみをもつてきましたが、お寺 자체が好きといふことではありませんでした。

でも、歳を重ねて、そういう仏事を通して一年の節目を感じられたり、近所の方や門徒さんがお参りされるときに「久しぶりだね」とお遇いできたりとか。お寺は人が集う魅力的な場所なんだなど大人になつて感じています。

### 歌うこと

私が歌を歌おうと思つたきっかけは、教育実習のときに生徒とコミュニケーションがうまくとれなくて、その時に自分が作詞作曲した曲を歌つたんですね。そうしたら子供達との間にあつた壁がすぐにとりはらえて、その時に自分が歌うことでもいろんな人と出遇つていけるのかもしない、という可能性を感じてか

ら歌い始めるようになりました。

引っ込み思案な私でも自分を表現できるもの。また私いろいろな人を繋ぎ、私の歌を通してお客様と同士

繋がることができる。そういう人との繋がりを作つてくれることが歌うことだと私は感じています。

### いろいろな御縁を通して

昨年は大震災があつて、大勢の方の命が失われました。そういう状況の中で親鸞聖人の七五〇回大遠忌が勤まつことを通して、みんなが改めて考えさせられる機会をいただいたのではないかなど思つています。

お経と歌はとても似てゐると感じます。称えることで、「すきむこと」で励まされ、明日への力をもらえたり……。

色々なお寺の行事にも参加させていただく機会も増えましたが、私なりにも、歌の中で「人は自然の中できかされている」ということを伝えていふたら思つています。

(聞き手 蓮井 邦宗)

## なん<sup>4</sup>で? 「お香」

仏事では線香や抹香<sup>まつこう</sup>を焚きますが、その起源はインドで遺体の死臭を消すためといわれます。しかし、今日は仏法を象る莊嚴<sup>かだい</sup>の一つとして用いられています。

親鸞聖人は、仏法の香りが人に染みつく様を「染香人<sup>せんこうじん</sup>」のその身には香氣あるがごとくなり」と尊ばされました。また、何度も仏法を繰り返し聞かれた方を「聞薰習<sup>もんくんじゅう</sup>」とも喜ばれました。つまり、香そのものではなく「染」や「習」と表すように、香りを受け取る私達のことを問題にされているのです。

私達がどういう環境の中に身を置き、そして仏様から何を願わされているのか。香の見方を通じて、私達が教わることは沢山あるのだと思います。

(高橋 淳記)

十二光の二番目は、無辺光ではでなく行き届く光です。親鸞聖人は、無辺光について、「解脱の光輪きわもない光触かぶるものはみな有無をはなるとのべたまう 平等覚に帰命せよ」（すべてのとらわれから人々を解放する阿弥陀仏の光は、全世界を照らしている。照らされるものは、みな有無の執着を離れるといわれる。すべてを平等に救う阿弥陀仏に、帰依しよう）と和讃されます。

はてしない光は、すべての人に至り届いて、あらゆるとらわれを「解脱」解放させといわれます。それで、この無辺光仏の光を受けたものは、「有無をはなるとのべたまふ」と「ある・なし」のとらわれから解放されるといわれます。最近、ブータンの国民総幸福度（GNH）が注目され、政府も「幸福度指標」の試案を公表して、幸福度の向上を目指す関心が高まっていますが、『大無量寿經』は、「尊もなぐ卑もなし。貧もなく富もなし。少長男女共に錢財を憂う。有無同然なり」と教えます。阿弥陀仏のまなざしからいうと、威張る人も卑下する人

も、生活の苦しい人も贅沢な人も、子どもも大人も男も女も、みんなお金が有つたらなあというが、所有欲にとらわれているかぎり有つても無くとも同じで、憂い悩みはかわらな



**松井憲一**  
正信偈の話⑦  
普放無量無辺光、無碍無対光炎王、清淨歡喜智慧光、  
不斷難思無称光、超日月光照塵刹。一切群生蒙光照。  
(あまねく、無量・無辺光、無碍・無対・光炎王、清淨・歡喜・智慧光、かむ  
不断・難思・無称光、超日月光を放って、塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る。)

いというのです。  
こうした心のとらわれを厳しく問  
われても、「冬嫌い半年経てば夏嫌  
うに行きわたつていい。いかなる障害  
も超えて、照らされるものに智慧を

三番目は、無碍光で、なにものにも碍げられる事のない光です。親鸞聖人は、「光澤かぶらぬものぞなき」と、雨が山川草木をうるおすようにすべての人々に「光澤」うるおいを与えてくださるのです。この「光澤」には、「光にさわりなし光沢かぶらぬものぞなき 難思議

惠まれる。人々の想像を絶する徳の阿弥陀仏を、帰依しようと和讃されます。平等覚の左訓には、「阿弥陀仏は法身にてましますあひだ、平等覚といふなり」とあります。有無にとらわれるわれらは、南無阿弥陀仏と平等覚に帰命するほかに、そのままの自分を受け取る喜びは湧かないと教えられるのです。三番目は、無碍光で、なにものにも碍げられる事のない光です。親鸞聖人は、「光澤かぶらぬものぞなき」と、雨が山川草木をうるおすようにすべての人々に「光澤」うるおいを与えてくださるのです。この「光澤」には、「光にさわりなし光沢かぶらぬものぞなき 難思議

を帰命せよ」（なにものにもさまたげられない阿弥陀仏の光は、人空のよ

と、事実を人間の思議（解釈）で納得させようとする愚かさに目覚めて、南無阿弥陀仏せよと教えられるのです。

昨年末、大学時代の仲間との忘年会で、ある後輩が卒業後、人生に悩み三年間引き籠もつていた当時の話をしてくれた。

自分でもどうしていいか分からず苦しんでいた中で、その期間が延びるにつれ、家族や親戚には「何をしてるんだ」「就職しろ」、また「甘い」などといわれ、追い詰められた。

もがき  
苦しむ

ある日、父親が「あいつが今、何に

もがいているのか分かるのか」と家

族に言い放ったそうである。その言葉が彼にとって方向転換の言葉になり、今は元気に働いている。

ただ当時、父親は末期癌で就職が決まる前に他界したことが悔やまれると語ってくれた。しかし彼の「親父は待つてくれてたんですね」という言葉には、今頃気が付いたという申し訳ない気持ちと同時に、どこか力

がみなぎっていた。

親父さんは息子の行く末を心配しながらも、見守り、厳しく見据えておられたのだと思う。

私どもは如来から、護念され我が身に目覚めることを待たれている身だという言葉が思い起された。しかし一向に呼びかけに耳を傾けず、自分の城（疑城胎宮）に引き籠もつていると教えられる。

それは何でも自分で解決しようとしている姿ではないだろうか。また出来ると思つてゐるのではないだろうか。頑張れば頑張る程、その結果、自分の思いに沈んでいく。

待たれている、護念されている身に目覚めることが生きる原動力になるんだと感じた。南無阿弥陀仏はそういう身に目覚めよといふ呼びかけなのである。

（山崎 哲記）



## 日誌

- 11月 13日 教行信証『信巻』に聞く(第75回)  
講師 宗 正元師
- 1月 14日 混声合唱団「エコー」練習
- 1月 17日 仏教青年会『歎異抄』に聞く  
講師 宗 正元師
- 1月 19日 東京教区新年会
- 1月 21日 定例聞法会
- 1月 22日 評議員会新年会
- 1月 27日・28日 宗祖忌
- 1月 28日 同行会新年会 参加者 17名
- 2月 4日 混声合唱団「エコー」練習
- 2月 5日 城東ブロック会聞法会  
(市川八幡神社 参加者 25名)
- 2月 7日・8日 中興忌
- 2月 8日 婦人会聞法会  
本山リーフレットに聞く「みんなみんな意味がある」  
責任役員会・総代会



## えこお志お礼

- |     |          |
|-----|----------|
| 豊中市 | 最勝寺 様    |
| 新潟市 | 梵行寺 様    |
| 江東区 | 坂口 実祥 様  |
| 愛知県 | 西村 知津 様  |
| 横浜市 | 池田 喜久子 様 |

## 掲示板

平成24年 3月

- 3日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
- 4日(日) 午後2時 城北ブロック会聞法会  
(王子 北とぴあ)
- 6日(火) 午後7時 仏教青年会レクレーション  
(ボウリング大会)
- 7日(水) 午後1時 婦人会聞法会  
本山リーフレットに聞く  
「変わる時代」

- 10日(土)午後2時 評議員会定例役員会
- 午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く  
法話 岸本住職
- 14日(水)午後1時半 教行信証『信巻』に聞く(第77回)  
講師 宗 正元師
- 17日(土)~23日(金) 春季彼岸会
- 22日(木) 聖徳太子奉讚会・本山特派布教・  
春季永代經法要  
布教使 源 善淨師
- 24日(土)午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
- 午後5時半 同行会修習式  
「正信偈の教え」に聞く  
法話 木村主任



## 仏具磨きのお誘い

4月の28日(土)・29日(日)に迫った「宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要」ですが、当日に向けて着々と準備を進めております。ご門徒の皆さんには大勢ご参詣して下さいますようお願い申し上げます。

この度、大遠忌法要をお迎えするにあたって、本堂のお荘厳(燭台・香炉・華瓶等)や会館の御内仏の仏具磨き、境内の清掃等をご門徒の皆さんと一緒に行いたいと思っております。

これまで報恩講の前に山内職員だけで行ってきましたが、大遠忌法要を機縁にご門徒の皆さんにも参加していただき、実際にお荘厳に触れて共におきゅうじ給仕を行いたいと思います。

当日は昼食のご用意も致します。ぜひ御参加下さいますようお願い申し上げます。

期 日 平成24年4月10日(火)

午前10時から

場 所 西徳寺 境内

※参加していただける方は寺務所までご連絡下さい。  
(電話 03-3875-3351番)

## 山門の改修工事

「宗祖親鸞聖人750回大遠忌記念事業」の一環であります山門の改修工事がすでに行われております。それに伴いまして、山門の壁面に掲載していた山門再建にあたっての「寄付者名札」(昭和37年)と、境内に設置していた「大遠忌寄付者名札」を取り外し、今後、新たな方法で掲載・保存させていただきたいと思っております。

この件につきましては後日、あらためてご報告致します。何卒ご了解いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

## 編集後記

日本各地を席巻しているインフルエンザの流行によって、子供の学校が学級閉鎖になったり、同僚の子が兄妹そろって感染したりと、私の身近な場所でも猛威を振るっています。マスクを付けるのは勿論、うがいや手洗いなど十分に注意をしてはいますが、予防に完璧な手段はないというのが現実です。

目には見えないウイルスの驚異に恐れを抱く私たちですが、どれだけ準備や対策を練ったとしてもなかなか思い通りにならない現実。それが本来、私の頂戴しているいのちではないでしょうか。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：<http://saitokuji.tobiiryo.jp/>

## 「大遠忌法要」 混声合唱団「エコー」 演奏 プログラム

指揮 横山慎吾 ピアノ 金澤麻里子

入場 献灯・献花を先頭に団員の入場

### 第1部 佛教聖歌集

1. 真宗宗歌
2. 三帰依
3. 正信讃歌
4. 念仏
5. 恩徳讃Ⅱ

### 第2部 独唱

テノール 横山慎吾

ゲスト ソプラノ 渡邊恵津子

ピアノ 金澤麻里子

### 第3部 日本の抒情歌

1. おぼろ月夜
  2. 夏は来ぬ
  3. 里の秋
  4. 冬の夜
  5. 早春賦
  6. さくら
- 終曲 恩徳讃Ⅰ

注) プログラムの内容に入替、変更があることがあります。

